

〔 例題 33 〕 チクセントミハイ（Csikszentmihalyi, M.）の提唱したフロー経験（体験）に関する記述として妥当なのはどれか。

1. 熱中しているときの忘我の状態の感覚のことであり、行為と意識の融合、注意の集中、環境を支配している感情、自己目的性などの特徴がある。
2. 自我意識のうちの能動性の意識が障害された状態であり、他人に何かをさせられている、何かを考えさせられていると感じる体験である。
3. 創造的問題解決の過程において、洞察を得る瞬間にしばしば伴う「あー（わかった）」と声を出すほどに感動する心的体験のことである。
4. 回避できない不快な経験が繰り返されることによって生じる、何をしても環境を変えられないという全般的にネガティブな感覚のことである。
5. 目標へ接近していく行動が阻止された際に生じる緊張状態からくる不快な感覚のことである。

〔 例題 34 〕 ホリングワース（Hollingsworth, L.S.）による心理的離乳に関する記述として妥当なのはどれか。

1. 青年期に生じる、家族の監督から離れ一人の独立した人間になろうとする試みのことである。
2. 出産直後から1週間頃までの母親に見られる一過性の気分と体調の障害のことである。
3. 2歳、3歳頃の子どもに、自我の発達により反抗的行動が出現してくることである。
4. 養育者の喪失や養育者との分離等によって、子どもが十分に特定他者との関係性を享受できなくなる状態のことである。
5. 乳幼児が乳房による満足の代わりに、ぬいぐるみなどで母親からの分離不安を防御することである。

〔 例題 35 〕 印象形成における光背効果に関する記述として妥当なのはどれか。

1. 他者がある側面で望ましい（又は望ましくない）特徴をもっていると、その評価を当該人物に対する全体的評価にまで広げてしまう傾向のことである。
2. 他者の性格や行動傾向を推測するときに、親や師などの関係者に対する評価を当該人物にまで適用してしまうことである。
3. 他者の性格や行動傾向を当該人物の人種、性別、所属集団などの特徴から推測してしまう傾向のことである。
4. 他者の性格や行動傾向を推測するときに、当該人物との最初の接触時の情報が後々まで強い影響を及ぼすことである。
5. 他者の性格や行動傾向を推測するときに、当該人物自体の特徴だけでなく、接触した場所の特徴が強い影響を及ぼすことである。